政策評価システムにおける「業績測定」と論点抽出

宮　本　幸　平

1．考察の目的と内容

本稿は，地方政府が実施する政策の業績評価システム（以下，政策評価システム）のプロセスにおいて，如何なる「業績測定」の数値が表示されるべきか，また当該数値により如何に「業績評価」が行われるべきかについて明らかにする。そのうえで最終的に，「業績測定」における論点抽出を行うものである。

先行研究，公表概念書および現行実務によれば，実施政策のプロセスは，最初に「目標」（Objectives）の設定が行われ，これを達成するための活動に要する経営資源が「投入」（Inputs：以下，インプット）されて，「活動」（Activities）が展開される。しかるのち，住民などの受益者に財・サービスが「提供」（Outputs：以下，アウトプット）され，その結果として「効果」（Outcomes：以下，アウトカム）が発現する。政策評価システムでは，これら各プロセスに対する「業績測定」と「業績評価」が行われる。

そしてこうした，測定値に基づく評価の基準として，先行研究では，「経済性」（Economy）・「効率性」（Efficiency）・「有効性」（Effectiveness）の３基準が設定される場合が多い。「経済性」はインプットにより生じるコストをできるだけ少なくすること，「効率性」はアウトプットにつき既定のインプットを前提としてできるだけ大きくすること，「有効性」はアウトプットがもたらすアウトカムが設定目標を達成していること，である。したがって，インプットで「経済性」，アウトプットで「効率性」，アウトカムで「有効性」の「業績評価」が実施されることになる。そこで本考察では，「業績評価」を行うため，まず政策実施により生じるインプット，アウトプット，およびアウトカムの「業績測定」値を明らかにし，しかる後，当該測定値による「業績評価」への誘導プロセスが示される。

またこのなかで，アウトカム測定値は，受益者が得た「効果」の測定値であり，政府により支出された貨幣価額であるインプット測定値およびこれに基づく提供量であるアウトプット測定値と比べ，測定の困難性と価額の客観性の点で問題が伏在する。このことは，

政策評価におけるアウトカム測定値が，管理者の設定による目標達成度で表示されることに起因する。また，アウトカム測定値とアウトプット測定値について，先行研究や現行実務において混同が見受けられる。そこでこの様な，アウトカム測定値に係る論点抽出を考察の最終目的とする。

構成として最初に，アメリカ政府会計概念書が提示するインプット・アウトプット・アウトカム測定値と，わが国の行政評価システムにおいて測定・表示される項目を例示する（第２節）。次いで，政策評価システムの「業績測定」値から「業績評価」への誘導プロセスについて明らかにする（第３節）。そのうえで，アウトカム測定値に内在する論点を明示すべく，「アウトプットとアウトカムの峻別の不明確性」，および「アウトカム測定値における客観性の問題（主観の介在）」，の２点の論点抽出を行う（第４節）。

2．政府会計概念書および実務における「業績測定」値

本節では，政策評価システムにおいて表示される「業績測定」値が如何なるものであるかを示す。まず，アメリカ政府会計基準審議会（Governmental Accounting Standards Board：以下，GASB）の概念書において規定された，「サービス提供の努力と成果の報告」（Service Efforts and Accomplishments reporting：以下，SEA 報告）で表示されるべき「業績測定」値について整理してまとめる。次に，わが国地方政府の政策評価システムで測定・表示される「業績測定」値を概観する。

2.1　アメリカ政府会計概念書が規定する「業績測定」値

（１）「SEA 報告」の概要

GASB 概念書第２号（以下，GASB［1994］）は，政府機関がサービスを提供するためになされた「努力」および得られた「成果」の報告を如何にすべきかが示されたものである。ここにおいて，貸借対照表や損益計算書によって提供できない業績の情報開示を SEA 報告の基本目的の１つとし（par. 63），当該情報の把握によって，政府の経済性・効率性・有効性を情報利用者（市民，投資者・与信者・議員）が査定するのに役立つと規定している（par. 4）。

SEA 報告のための測定値としては，①サービス提供の努力の測定値（サービス提供のために用いられる貨幣や物量などによって表された資源の総計），②サービス提供の成果の測定値（利用された資源によって何が提供され達成されたかを報告するもの），③努力と成果を関連づける測定値，が挙げられる（par. 50）。より具体的には，①の努力の測定値を「インプットの測定値」，②の成果の測定値のうち，提供されたサービスの量を測定

するものを「アウトプットの測定値」，提供した成果・結果を測定するものを「アウトカムの測定値」と呼ぶ（par. 50）。また③について，アウトプット単位あたりに利用された資源またはコストを「効率性の測定値」，アウトカム単位あたりに利用された資源またはコストを「コスト―アウトカムの測定値」と規定している（par. 50c）。

（2）GASB／SEA 報告における「インプットの測定値」

まず，政策におけるインプットの測定値と同義である，サービス提供の「努力の測定値」について，GASB［1994］は，図表１の内容を具体例として示している。

図表１　GASB／SEA 報告における「インプットの測定値」

測定値の内容		測定値の具体例
財務情報	支出／費用の財務的測定値	・給与 ・従業員福利厚生費 ・材料費 ・消耗品費 ・設備費
	努力の測定値	・教育に費やされた金額 ・公共交通に費やされた金額 ・道路保守に費やされた金額 ・犯罪捜査に費やされた金額
非財務情報		・職員数 　・常勤職員数，勤務時間数 　・全教員数，学生１人当たりの教員数 　・全道路保守作業員数，道路車線１マイル当たりの道路保守作業員数 ・サービス提供に用いられる設備の量（車両の台数，道路の車線マイル数，公園用地のエーカー数）

出所：GASB［1994］par. 50a から抜粋して作成。

表に示されたとおり，インプットの測定値である「財務情報」は，「支出／費用の財務的測定値」および「努力の測定値」に分類される。これらはいずれも，会計において何らかの予算科目（款・項・目）に含められるべき類いの，貨幣価額に基づく測定値である。

他方，「非財務情報」は，政府の主たる資源である職員・教員・道路保守作業員の投入に関する数量・指標，およびサービス提供のために投入された資源・設備の数量もしくは指標である。

（３）GASB／SEA 報告における「アウトプットの測定値」

次に，アウトプットの測定値として，政策において提供されたサービス量である「成果の測定値」について，GASB［1994］は，図表２の内容を具体例として示している。

図表２　GASB／SEA 報告における「アウトプットの測定値」

測定値の内容		測定値の具体例
成果の測定値	サービスの提供量	・進級又は卒業した学生数 ・補修道路の車線マイル数
	特定の質的要件を満たしたサービスの提供量	・犯罪捜査件数 ・指定水準以上の成績で進級または卒業した学生の割合 ・定時運行の達成基準を満たしたバスの割合 ・ある最低限の満足な状態まで補修された道路の車線マイル数の割合
努力と成果を関連付ける測定値（アウトプットに関するもの）	効率性（アウトプット単位あたりに利用された資源またはコスト）	・学生１人当たりのコスト ・交通機関の乗客１人当たりのコスト ・全面改修または補修された道路の車線マイル数当たりのコスト

出所：GASB［1994］par.50a および par.50b より抜粋して作成。

表に示されたとおり，成果の測定値（アウトプットの測定値）は，「サービスの提供量」および「特定の質的要件を満たしたサービスの提供量」に分類される。これらはいずれも，インプットである支出／費用（人件費・経費など）に基づく活動により提供されたサービスの量，および特定の質的要件をみたすアウトプット（全体に対する当該アウトプットの割合）の測定値である。

また，「努力と成果を関連付ける測定値（アウトプット）」は，提供されたアウトプット単位あたりに利用されたコストであり，政策の「効率性」を評価するための測定値である。

（４）GASB／SEA 報告における「アウトカムの測定値」

そして，アウトカムの測定値として，政策において提供されたサービスの「成果の測定値」について，GASB［1994］は，図表３の内容を具体例として示している。

表に示されたとおり，アウトカムの測定値は，提供したサービスに因って発現した「効果」につき，特定の質的要件を満たしたサービス提供量の割合，過年度の結果・設定目標・基準／標準・他部門との比較，により示される。当該測定値は，政府がサービス提供のた

図表３　GASB／SEA 報告における「アウトカムの測定値」

測定値の内容		測定値の具体例（抜粋）
成果の測定値	特定の質的要件を満たしたサービスの提供量	・読解について一定の習熟度の向上を達成した学生の割合 ・公共交通を利用した人の割合 ・優良，良好，普通の状態にある道路の車線マイル数の割合
	過年度の結果，設定目標，基準・標準，他部門比較して示される測定値	・読解習熟度向上を達成した学生割合の当該地方の目標，他の管轄区の達成度，当該地方の達成度の３つを比較して示される測定値
	需用者・州・地域社会に対するサービスの副次的影響の測定値	・退学者低下による求職者低下による失業者低下 ・公共交通利用者増加による交通事故の減少 ・良好状態にある道路車線マイル数の割合増加による自動車修理費用の減少
努力と成果を関連づける測定値（アウトカムに関するもの）	コストーアウトカム（アウトカムまたは結果単位あたりに利用された資源・コスト）	・読解について一定習熟度を達成した学生１人当たりのコスト ・予定時刻迄に停留所に到着した乗客の１人当たりのコスト ・優良・良好・普通の状態に改修または維持された道路の車線マイル数当たりのコスト

出所：GASB［1994］par. 50a および par. 50b より抜粋して作成。

めに支出した現金等の価額（インプット），もしくは提供量（アウトプット）ではなく，割合，達成度，減少量，減少コストなどである。

また，「努力と成果を関連付ける測定値（アウトカム）」は，アウトカム単位あたりに利用されたコストであり，過年度，設定目標，標準，他部門との比較によって，政策の努力に対する「成果」を評価するための測定値である。

（５）小括

このように，GASB［1994］において示された，SEA 報告のための測定値についてまとめると，次のようになる。

・インプットの測定値は，政策実施のための原資である。「支出／費用の財務的測定値」および「努力の測定値」として分類され，会計においていずれかの予算科目（款・項・目）に含められるべき貨幣価額である。

・アウトプットの測定値は，受益者に対する財・サービスの提供量である。インプットである支出／費用（人件費・経費など）を財源とする活動により提供されたサービスの物量，および特定要件をみたすアウトプットの全体に対する割合である。
・アウトカムの測定値は，「提供された資源・サービスから生じた成果または結果を測定するもの」であり，アウトプットのうち特定の水準に達したものの割合（達成度の数値），過年度の結果・設定目標・一般に認められた基準／標準，政府機関の他の部門などと比較に基づく測定値，が挙げられる。

そして，GASB［1994］で例示された測定値の特質を検証すると，アウトプットの測定値およびアウトカムの測定値ともに，「特定レベルに達した財・サービス」を測定対象とすることが明らかとなる。前者の例として「指定水準以上の成績で進級または卒業した学生の割合」が挙げられ，後者の例として「読解について一定の習熟度の向上を達成した学生の割合」が挙げられている。

2.2　わが国政策評価実務における「業績測定」値

以上により，アメリカ地方政府会計概念書における，政策評価のための業績測定値が示された。次に，現行（平成24年時点）のわが国の政策評価実務において測定・表示される「業績測定」値を概観していく。

わが国地方政府の行政活動は，「政策－施策－事務事業」の3階層で体系が設定され[1)]，各々について「業績測定」および「業績評価」が行われている[2)]。政令指定都市3市における政策の「経済性」・「効率性」・「有効性」を評価するために測定されたインプット・アウトプット・アウトカムの「業績測定」値を列挙すると，図表4のとおりである。

表をみると，まずインプットの測定値は，事業費および人件費につき，過年度，当年度（但し見込額），次年度予算額が表示される。これらは財務情報であり，会計制度などに基づいて測定された会計測定値が表示される。政府全体ではなく「事業」の測定値であるため，他会計への移転支出等は基本的に表示されない。

アウトプットの測定値は，包括的・総称的な費目（事業費や人件費など）ではなく，それぞれの「事業」により設定された項目，指標などの実績値が表示される。また時系列データとして，過年度実績，当年度見込，次年度目標値が示される。

そしてアウトカムの測定値は，アウトプット測定値と同様，それぞれの「事業」により設定された項目に対し，目標達成度（もしくは比較）の数値が主に表示される。これについても，過年度実績・当年度見込・次年度目標の時系列データが示される。

図表４　インプット・アウトプット・アウトカムの「業績測定」値（事例）

	名古屋市	京都市	福岡市
インプットの「業績測定値」	●事業費 ●職員人件費 …… 前年度決算額，当年度決算見込額，次年度予算額	●事業費（需用費・役務費・その他経費） ●人件費 …… 過去３年の決算額，当年度予算額，次年度予算額	●事業費 ●人件費 …… 前々年度決算額，前年度決算額，当年度決算見込額，次年度予算額
アウトプットの「業績測定値」	●項目 …… 前年度実績，当年度実績，次年度計画	●指標 ●効率性（単位当たり経費） …… 過去３年の実績値，過去３年の実績の単位当たり経費	●アウトプットに関わる指標 …… 過去３年のアウトプットの実績値，次年度目標値
アウトカムの「業績測定値」	●項目 …… 前年度成果，当年度成果，次年度計画	●目標達成度 …… 過去３年の目標達成度	●アウトカムに関わる指標 …… 過去３年のアウトカムの目標値と実績値，次年度目標値

出所：各市のホームページを参照して作成。

3.「業績測定」値に基づく「業績評価」への誘導プロセス

以上により，インプット，アウトプット，アウトカムの「業績測定」値が示され，各々の表示項目が把握された。いわゆる政策の PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action）に従うならば，「業績測定」値に基づいて「経済性」・「効率性」・「有効性」の「業績評価」へと誘導されるのは「Check」プロセスにおいてである。そして次の「Action」プロセスで，「業績評価」の結果が次期予算編成にフィードバックされる。そこで以下では，「業績測定」値がどの様に「業績評価」に結び付くかの誘導プロセスについて明らかにする。

3.1　インプット測定値の「経済性」評価への誘導

政策の「投入」プロセスでは，インプット測定値が「業績測定」され，「経済性」の評価基準によって「業績評価」が行われる。「経済性」とは，求められるアウトプットの達成を前提に，インプットがいかに抑えられたかの基準概念といえる。図表１のとおり，GASB［1994］ではインプットの測定値として，従業員給与・材料費・設備費など，支出／費用の財務的測定値を主たる項目としている[3)]。したがって「経済性」の「業績評価」では，貨幣価額で測定されるインプットの「業績測定」値がどれだけ抑えられたかが評価される。

実務においてインプットの抑制度合を評価するには，比較対象を設定する必要があり，これには，①当初設定予算額，②過年度インプット貨幣価額，が挙げられる。まず目標設定により予算額が確定し，これに基づいて貨幣の支出が行われる。したがって，支出する貨幣の抑制度合を評価するための比較対象は，第一に，設定された当初設定予算額である。さらに，当該設定予算により実施される政策が過去からの継続である場合には，過年度インプット貨幣価額との比較により，抑制度合すなわち「経済性」を評価することになる。

3.2　アウトプット測定値の「効率性」評価への誘導

次に，政策の「提供」プロセスでは，アウトプット測定値が「業績測定」され，「効率性」の評価基準によって「業績評価」が行われる。「効率性」とは，投入されたインプットの範囲内で，アウトプットをいかに最大化するかの基準概念といえる。図表２のとおり，GASB［1994］ではアウトプットの測定値として，進級又は卒業学生数，補修道路の車線マイル数など，サービス提供量を主たる項目としている。価値としてのアウトプットは，インプットの貨幣価額から転化したものであり，両者は等価である。したがって「効率性」の「業績評価」では，貨幣から転化した提供資源量で測定されるアウトプットの「業績測定」値がどれだけ最大化されたかが評価される。

評価実務においてアウトプットの最大化度合を評価するには，比較対象を設定する必要があり，これには，①当初設定提供目標量，②過年度提供量，が挙げられる。まずインプットがあり，結果として受益者に財・サービスが提供される。したがって，アウトプットの大きさの度合を評価するための比較対象は，第一に，設定された予定提供量である。さらに，当該提供が過去からの継続である場合には，過年度提供量との比較により，最大化度合すなわち「効率性」を評価することになる。

3.3　アウトカム測定値の「有効性」評価への誘導

政策の「効果」発現プロセスでは，アウトカム測定値が「業績測定」され，「有効性」の評価基準によって「業績評価」が行われる。「有効性」とは，提供されたアウトプットがもたらすアウトカムが，どの程度設定目標を達成しているかの基準概念といえる。図表３のとおり，GASB［1994］ではアウトカムの測定値として，読解習熟度向上を達成した学生の割合，公共交通を利用した人の割合など，一定水準をみたした提供サービスの成果の，全体に対する割合を主たる項目としている。したがって「有効性」の「業績評価」では，「提供」業務がもたらす成果の達成度合が評価される。

評価実務においてアウトカムの達成度合を評価するには，比較対象を設定する必要があ

り，達成度としての①当初設定目標，②過年度測定値，③一般に認められた基準・標準，④他部門の測定値，を挙げることができる。[4)]

政策のマネジメント・プロセスにおいては，「目標」設定により予算額が確定し，これに基づいて貨幣の「投入」が行われて「活動」が始まり，財・サービスが「提供」される。そして「提供」業務によって「効果」発現に及ぶ。したがって，「効果」の達成度合により「有効性」を評価するためのアウトカムの比較対象は，当初に設定された「目標」である。[5)]また，当該「活動」が過去からの継続である場合には，過年度アウトカムと比較して達成度合を評価することになる。さらに，一般に認められたアウトカムの基準・標準値，および他部門のアウトカム測定値も，達成度合を評価するための比較対象となる。

3.4　小括

以上により，業績測定値をいかにして業績評価に結び付けるべきかという誘導プロセスにつき明らかにした。論述をまとめると，次の図表５のようになる。

図表５　「業績測定」値の「業績評価」への誘導プロセス

	「業績測定」値の特質	「業績測定値」による「業績評価」の方法	「業績評価」のための比較対象
インプット	貨幣価額の測定値	いかにインプットが抑えられたか（経済性）	・当初設定予算額 ・過年度インプット貨幣価額
アウトプット	提供資源量の測定値	アウトプットがどれだけ最大化されたか（効率性）	・当初設定提供目標量 ・過年度提供量
アウトカム	提供サービスから生じた成果の測定値	「提供」業務がもたらす「効果」の達成度合（有効性）	・当初設定目標 ・過年度アウトカム測定値 ・一般に認められた基準・標準 ・他部門の測定値

4. アウトカムの「業績測定」における論点抽出

以上によって，政策評価システムにおける「業績測定」値と「業績評価」基準が如何なるものであり，「業績測定」値に基づく「業績評価」を如何に実施するかという誘導プロセス」が示された。このなかでインプットおよびアウトプットは，それぞれ支出貨幣価額およびサービス提供量による客観的測定が可能である。これに対しアウトカムの測定値は「提供サービスから生じた成果の測定値」と規定しながらも，貨幣価額や提供量などに匹

敵する測定値の共通的・一般的な尺度を持たない。そこで以下では，こうしたアウトカム「業績測定」値に対する具体的な論点抽出を行う。

4.1　アウトプット測定値とアウトカム測定値の峻別の不明確性

前述のとおり，政府の貨幣支出に基づくインプットにより提供された，財・サービスの量がアウトプットであるため，単位は異なるものの2つは等価となる。これに対しアウトカムは，受益者に提供された財・サービスから生じた「成果」の測定値である。この点につき GASB [1994] では「アウトプットは，提供された財・サービスの量を測定するものである。これに対してアウトカムは，アウトプットを提供した結果を測定するものである。」と述べられている（par. 50b）。

そして，GASB [1994] においては，アウトプット測定値の事例として，「進級又は卒業した学生数」が挙げられている。しかし，これは提供された財・サービスの量ではなく，教育事業に従事した教職員等による提供サービス（これがアウトプット）から発現した「成果」である，アウトカムの「業績測定」値である。進級・卒業は，提供サービス（即ち教職員等による教育）に起因した「成果」としてもたらされたのであり，アウトカムと考えるべきである。

さらには，「一定時運行の達成基準を満たしたバスの割合」，「ある最低限の満足な状態まで補修された道路の車線マイル数の割合」など，特定の質的要件（一定の水準）を満たした財・サービス提供量もアウトプット測定値とされる。しかしこれらは，政府の貨幣支出によりもたらされた全ての提供量ではなく，したがってインプットと等価でない。提供されたアウトプットであるものの，一定水準以上の成果を得たもののみを対象とした「業績測定」値であるため，「成果」であるアウトカム測定値に含めるのが適切である。質的要件（一定の水準）とは，全ての提供量（これがアウトプット）のなかで，効果の発現を受益者が認識したであろう（と政府が予測する）水準に過ぎない。しかし，当該水準を上回れば，効果発現が叶ったアウトカムの測定値となるのである。

したがって前掲の図表2において，本来的にアウトプット測定値とすることができるのは，「捜査犯罪数」と「補修道路の車線マイル数」である。

このような，アウトプットとアウトカムの測定値の峻別の不明確性に関して，GASB [1994] では以下のように述べられている。

> 多くのアウトカムについては，それらの特質が複雑であり，また測定するアウトカムに影響を与えるにもかかわらず政府機関のコントロールが及ばない要因があるため，アウトプットとアウトカムの間にははっきりとした因果関係を見いだすことは不可能である（GASB［1994］, par. 50b）。

ここでのGASBは，アウトカムに対し政府機関のコントロールが及ばない要因の存在を明言しないが，この要因とは「アウトカムが，受益者の享受により発現する」ことであると考えられる。提供サービスの成果の測定値は，本来的には「受益者が感じた大きさ」である。そのため，政府が提供したアウトプットと，これに対応した成果発現との因果関係を見出すことは，GASBが指摘するとおり困難である。したがって，当該関係を見出せないことに起因し，アウトプット測定値とアウトカム測定値の同視化に繋がったものと判断できる[6)]。

しかし，GASB［1994］の規定を文理解釈すれば，アウトプット測定値は「サービスの提供量」であり，政府が提供するサービスの「業績測定」値である。これに対しアウトプット測定値は「アウトプットを提供した結果を測定するもの」であり，受益者が受領したサービスの成果の「業績測定」値である。この点を参酌しながら，アウトプット測定値とアウトカム測定値を峻別すると，図表6のようにまとめることができる。

図表6　アウトプット測定値とアウトカム測定値の峻別

項番	測定値	測定対象の事象	内　容
1	アウトプット	政府が提供したもの	財・サービスの提供量
2	アウトカム	受益者が享受したもの	受取った財・サービスに起因する成果

すなわち，アウトプット測定値は，インプットを原資として政府が提供した，財・サービス量の測定値である。これには，提供された職員・教員・警察官などの員数やサービスの量，補修された道路の距離・本数，バスの運行本数・増便数，などが該当する。これに対しアウトカム測定値は，受益者が受取ったアウトプット（財・サービス）に起因して発現する「成果」の測定値である。これには，教育を受けた学生数[7)]，教育により一定水準の成績に達した学生数，バスの乗客数・増加数，予定時刻迄に停留所に到着した乗客数，一定基準より良好に改修・維持された道路の距離・本数，などが該当する。

そして，アウトカム測定値に基づく「有効性」の評価は，GASB［1994］で示されたとおり，当年度 の「業績測定」値と，当初設定目標値，過年度測定値，一般に認められた

基準・標準測定値，他部門測定値等との比較により達成されることとなる。とくにこのなかで「一般に認められた基準・標準」の測定値が明らかであれば，これとの比較によって政策の「有効性」が担保されたと考えることができる。ただし，過年度測定値および他部門測定値は，これ自体，目標・基準・標準の数値でないため，「有効性」査定のための比較対象としては注意を要する。

したがって，アウトプット測定値は「政府による全ての提供量」であることから，当該数量と，当初設定目標測定値もしくは一般に認められた基準・標準値との比較衡量により「効率性」を査定することが可能となる。他方，アウトカムの測定値は「受益者が受取った財・サービスに起因して発現する成果」であり，当該測定値と，当初設定目標値もしくは一般に認められた基準・標準値との比較衡量により「有効性」を査定することができる。

以上により抽出される論点は，アウトプットとアウトカムの測定値の峻別につき，GASB［1994］の文理解釈によれば明確であるにもかかわらず，現実には同視化により不明確となっていることである。

4.2　アウトカム測定値における主観の介在

GASB［1994］において示されたアウトカム測定値のなかで，「読解について一定の習熟度の向上を達成した学生の割合」の場合，達成状態である“一定習熟度”の度合いについて，管理者・基準設定者の主観に基づくものとなる。さらに，「一定の習熟度に達して有効性を具備する」と判断される学生の“割合”についても，管理者・基準設定者の主観に基づくものとなる。すなわち，アウトカム測定値である達成の“割合”（パーセンテージなど）につき，これを「有効性」具備と判断する基準値が，基準設定者によって決定されている。

同様にGASB［1994］において，アウトカムの測定値とされる「優良，良好，普通の状態にある道路の車線マイル数の割合」の場合，達成状態である“優良，良好，普通の状態”について，管理者・基準設定者の主観に依拠する。さらに，当該状態が認められる「道路の車線マイル数の割合」についても，設定者により目標値が設定される。すなわち，アウトカム測定値である達成の“割合”（パーセンテージ）につき，これを「有効性」具備と判断する基準値が，設定者の主観に依拠するものとなる。

したがって，一定基準が達成されたとみなされる“状態”の，全体に対する割合がアウトカム測定値となるが，かかる“状態”と，「有効性」が発現したとみなされる“割合”について，主観が介在することになるのである。

これに対し「公共交通を利用した人の割合」や「公共交通利用者増加による交通事故の

減少数」の場合，「利用した人の割合」や「交通事故の減少数」のアウトカム測定値は，事実としての政策の「成果」であり，一定基準が達成されたとみなされる“状態”であるかの主観的判断を要さない，客観的数値である。ただし，目標値・基準値，過年度値，他部門等との比較により，改善された（もしくは改善されなかった）と判断することは可能であるが，それが「有効性」を具備するレベルであるかの判断には，やはり主観が介在することになる。

したがって以上より，アウトカム測定値は，①一定基準が達成されたとみなされる“状態”の全体に対する割合の測定値と，②事実としての政策の「成果」の測定値，の２つに分類できる。そして①の場合には，“状態”が一定基準をみたしているという判断につき，基準設定者の主観が介在する。また，①および②において，達成の割合（パーセンテージ）につき，これを「有効性」具備と判断する基準値が，設定者の主観に依拠するものとなる。これらのことから，アウトカムの「業績測定」値につき，場合によっては二重に主観が介在していることに留意すべきである。

5．考察のまとめ

以上の考察により，まず，政策の「業績測定」値であるインプット・アウトプット・アウトカムの測定値が如何なるものであるかについて，アメリカ政府会計概念書，およびわが国行政評価システムの事例に基づいて明らかされた。次に，「業績測定」値に基づく「業績評価」への誘導プロセスが示された。そして，「業績測定」値に基づく「業績評価」において生じ得る，以下２論点が抽出された。

・アウトプットとアウトカムの測定値の峻別が，GASB［1994］の文理解釈により明確となるにもかかわらず，現実には同視化によって不明確となっている。
・アウトカム測定値と設定目標・基準値との比較により「有効性」を評価するために，当該目標・基準が，基準設定者の主観に依り設定されている。

２論点はいずれも，サービス提供の「成果」であるアウトカムの測定値に関するものである。「成果」の「業績測定」を実施する場合，本来的には受益者が評価主体となるべきである。そこで，提供者である政府が「業績測定」を実施する際には，何らかの基準・水準との比較衡量に依らざるを得ず，当該基準・水準の設定に主観が介在する。さらに，「一定の基準・水準に達したアウトプットの，全体アウトプットに対する割合」がアウトカムの測定値となることから，GASB［1994］およびわが国行政評価実務において，アウ

トプット測定値とアウトカム測定値の同視化が生じたと考えられる。

注

1）わが国政府・地方自治体の業績評価単位は「政策」・「施策」・「事業」の階層構造になっている（藤野［2007］，20－21頁）。

2）平成20年度決算において，都道府県で85.1％，市区町村で63.1％が，総務省の報告書に基づいて行政コスト計算書を作成・開示している（総務省［2010］，11頁）。尚，政策評価システムの考察対象として，会計学では「事務事業評価」を取り扱うのが一般的であるが，これ以外に，費用・便益分析理論に基づく「公共事業評価」が存在する。

3）「経済性」の評価は会計評価と考えられている（大住［1999］，89頁，および中井［2005］，189頁）。

4）GASB［1994］, par. 50b に詳しい。

5）「有効性」は，「アウトカムが求められている目標をみたしているかどうか」が評価基準である（中井［2005］，191頁）。

6）Ａ市・行政評価（2012年度）の「評価票」において，まちづくり事業の一環としての「イベント開催事業」につき，「イベント参加店舗数」をアウトプットであると同時にアウトカムでもあると考えている。この例につき本来的には，「イベント開催のための投入人員数」や「提供サービス内容」がアウトプット測定値であり，「イベント参加店舗数」はアウトカム測定値である。

7）「教育を受けた学生数」はアウトプットではなくアウトカムである。教育活動は，受益者である学生・生徒・児童がこれを受けることで完了するため，当該測定値は，教育活動の成果の一つと考えるべきである。アウトプットは教員数，指導時間などが該当する。

参　考　文　献

GASB［1994］, *Service Efforts and Accomplishments Reporting,* Concepts Statement No. 2 of the Governmental Accounting Standards Board.

大住荘四郎［1999］『ニュー・パブリック・マネジメント』日本評論社。

中井達［2005］『政策評価』ミネルヴァ書房。

藤野雅史［2007］「マネジメントプロセスにおける業績測定システムの利用」『会計検査研究』第36号。